

おごじょパワーでまちは元気

できることから コツコツと やってみなきゃ はじまらない

行財政分科会テーマ「どうする? どうなる 町の家計簿!」

「どうする? どうなる 町の家計簿!」をテーマに勉強会を重ねる中で、我が町の財政がいかに厳しいかを実感しました。財政再建団体にならないためにも、自分たちで実践できることは何かを考え、次のことを提言いたします。

提言1 <町の家計簿> 町民一人ひとりの努力で必ず削減できる!

〈私たちにできること〉

- 町民体操（ラジオ体操、足踏み行進を組み合わせたもの）を利用した健康づくりの実践
- 手作り料理で健康づくりに取り組みましょう。
- はしご診療はやめましょう。（病院を何軒もかけ持ちしない。）
- 手洗い、うがい（地場産業のお茶を利用）の励行。
- 必ず受診しよう年1回の健康診断（歯科検診を含む）。
誕生日検診として受診するようにする。
- ごみ処理施設（最終処分場を含む）の延命を！
*もったいないを合言葉に無駄を省き、ごみ減量に努めましょう。
*分別を徹底し、良質の資源ごみを出そう。

歳出額の55%（135億円）を占める社会福祉費（医療・介護・福祉）と環境費。なんと一日4千万円!!これは大きすぎる。

提言2 <町の借金> 考えよう 実質公債費比率 20.2% (2003年~2005年の平均)

実質公債費比率とは、自治体収入に対する借金返済額の比率のことであり、財政健全度を示す指標である。（数値が高いほど財政の悪化度が高い。）わが町も地方債の発行に都道府県の許可が必要となる実質公債費比率18%以上の許可団体である。

〈私たちにできること〉

- 町民の財政事情を知り、町民一人ひとりの意識を変えましょう。
- 国民の義務である納税は滞納しないようにしましょう。
- 自治公民会運営の充実を図り、ここに住んで良かったと思える生き方を。あらゆる分野で力を発揮し、大きな力となり、地域づくりが節約を生むことにはないでしょうか。
- 行政依存型から脱皮し、自分たちでできる事は自分たちの手でやりましょう。（清掃活動、高齢者・子供たちへの声かけ運動等）

分科会に参加して、一番強く感じたことは、さつま町の行財政に対し、これまで以上に「町の行財政」に関心をもつようになったことです。

メンバー全員で熱心に取り組む、町財政の在り方や町民としての意識など、率直に感じた、思ったことを論議したことで意識の向上につながったことです。

我が家の家計簿も町の家計簿も同じ。あらゆるものから無駄を失くし、ゆとりある財政を実現したいものです。

行財政分科会活動に参加して

最終回となる今回は、行財政分科会から出された提言内容についてご紹介します。

男女共同参画シリーズ
〈さつまおごじょ元気会『提言』〉
最終回
行財政分科会
⑤

今回で最終回となる男女共同参画シリーズ〈さつまおごじょ元気会『提言』〉ですが、これまでご紹介させていただきました提言につきましては、早急に対応できるもの、中長期的な視点から取り組めるもの、町民みんなで取り組めるもの、行政のリーダーシップできるもの、様々な提言がありますが、町民にとって、将来の子供たちにとって安心して生活できる、ふるさとを誇れる「さつま町」となることを願って、今後、町民と行政が一体となり取り組んでまいります。